

# RIETI政策シンポジウム パネルディスカッション 論点整理

December 16, 2005



吉富、金子、中田  
経済産業研究所

## 持続可能性の尺り方 (measures)


### I. 年金財政

1. 年金財政単年度収支 (Table 1)
2. 積立金の推移 5年分 1年分へ
3. 2005~2100の年金負債と年金資産のバランスシート上の均衡

### II. How to financially sustain?

1.  $T=18.3\%$ (2017)  給付率の低下
2. マクロスライド  58% 50%
3. modifiers
4. 国庫負担 1/3 1/2

### III. Efficiency への impact

1. 労働市場 掛け金が高くなりすぎる  正規 非正規
2. Saving 少なくなる 資本蓄積、成長が衰える
3. 未納、incentives 低い 限界人頭税率が高い 3段階免除方式 報酬比例への接近

### IV. 高齢者の Wellbeing への impact (生活、最低年金、医療、介護、、、)

包括的パネルデータ必要性

### V. 2004年改正の評価：改革の方向は正しいのか、どこへ向かえばよいのか

【麻生案】

	(earnings-related)		
	基礎	強制的 PAYG	強制的 Funded
改革後の姿	なし	なし	あり

何故改革が必要か？ : Gift for First Generations(Legacy Debt)

$r < g+n$  OK  
 $r > g+n$  掛金 T :  $1+g$ 、給付 B :  $(1+g+n)$  Legacy Debt Savings g

移行問題はどうするか？

2重の負担問題

- ・ front loading(現世代のショック) or 絶対的削減 or GDP 比率一定
- ・ back loading(チラシ型)

2004年改革はこれを達成

- ・  $t=18.3\%$ で固定
- ・  $b$ の下方調整(マクロスライド)
- ・ 国庫負担・数理公正

問題点は？

- ・ 人口推計(中位推計)は実現可能か？
- ・ そもそも少子化はどれだけ問題か？(扶養比率はそんなに変わるのか？)

【橘木案】

	(earnings-related)		
	基礎	強制的 PAYG	Funded
改革後の姿	あり	なし	任意
	(国庫負担)		

何故改革が必要か？：

- a) 安心感(セーフティーネット)
- b) 世代間格差

(1) そもそも何故 PAYG の年金システムが採用されているのか

- ・ consumption smoothing
- ・ redistribution
- ・ insurance

(2) 消費税とその他の課税(人頭税・pay-roll tax・賃金税)との等価性

(3) 白地の状態で Funded System を導入したときの問題点とは

- ・ 導入前世代の扶養をどうするのか？(見殺しには出来ない)
- ・ 成功したとしても IS ギャップが拡大
- ・ 膨大な積立金(GDP を上回る)の portfolio selection をどうするのか？

(4) 移行問題をどう処理するのか？

(5) 基礎だけで安心か？

- ・ 標準的世帯が生活水準を維持するのであれば老後に 400 万円×25 年分(1 億)の資金が必要
- ・ 基礎で賄えるのは約 40%、残り 4000 万円をどうするのか？

では、何がセカンドベストの改革案なのか？

何故改革が必要か？：再分配原理と保険原理の峻別を図る

【RIETI 案その 1】

	(earnings-related)		
	基礎	強制的 PAYG	Funded
改革後の姿	あり	あり	なし
	(国庫負担)		

基礎を再分配原理、earning-related の二階部分を保険原理に基づいたものにする

【RIETI 案その 1】

	(earnings-related)		
	基礎	強制的 PAYG	最低保障年金
改革後の姿	なし	あり	あり
			(国庫負担)

保険原理の徹底を前面に出し、再分配効果は最低限に抑える。